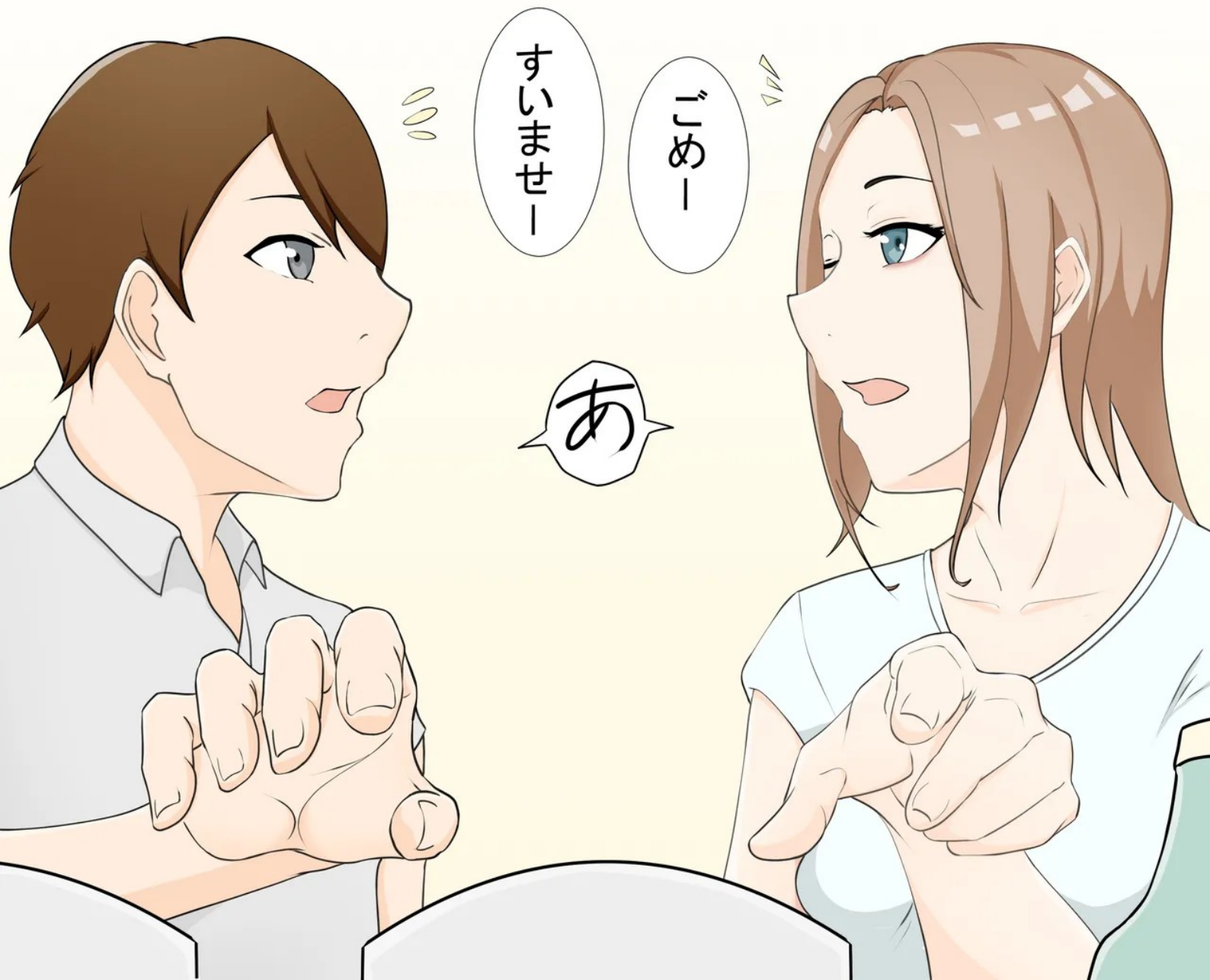
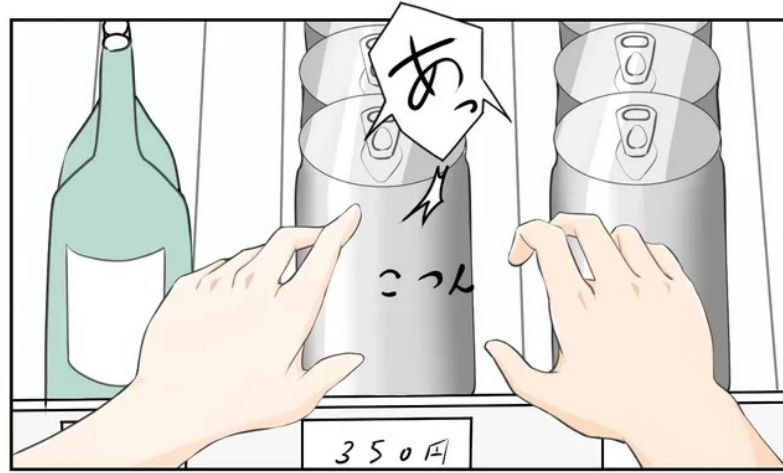
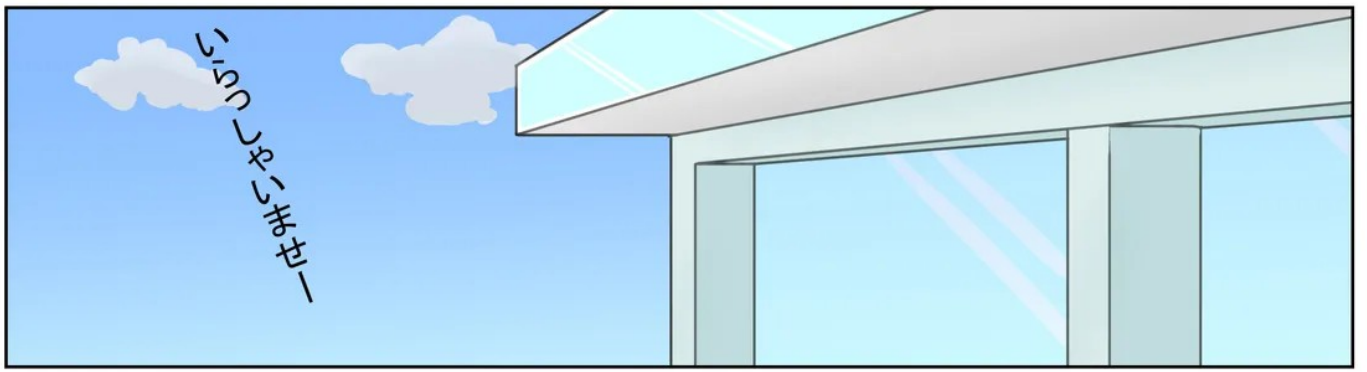
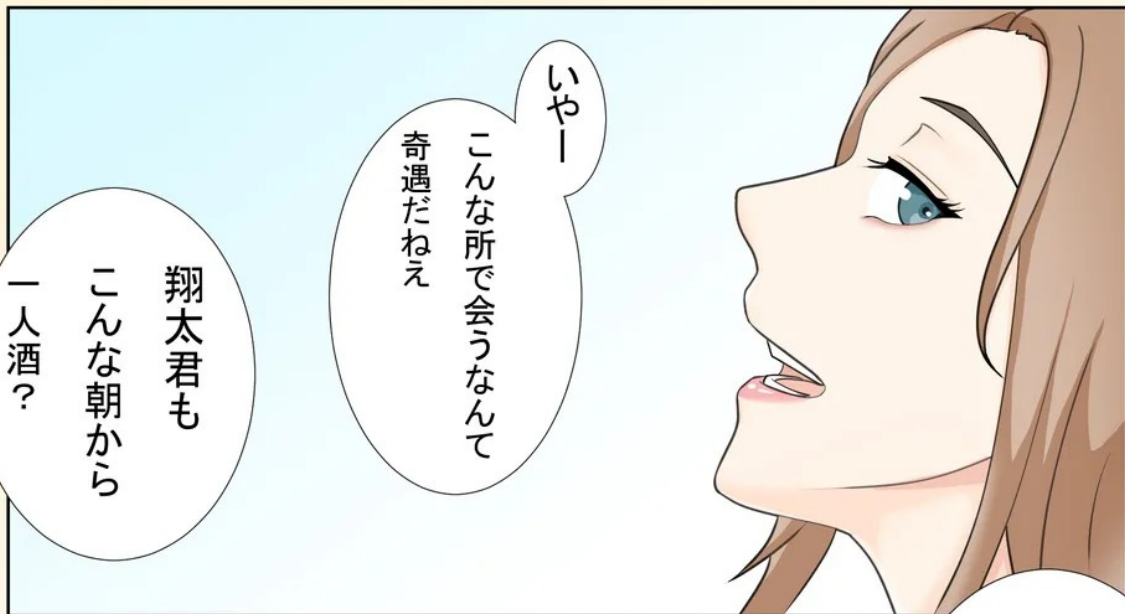


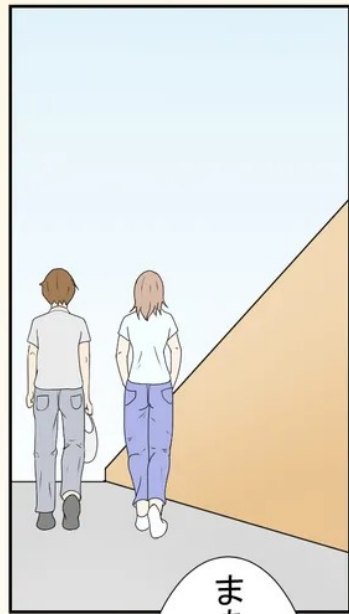




いやー

こんな所で会うなんて
奇遇だねえ

翔太君も
こんな朝から
一人酒？



まあ…そうですね

色々と予定が
なくなっちゃったんで
することがなくて…

あーいやー

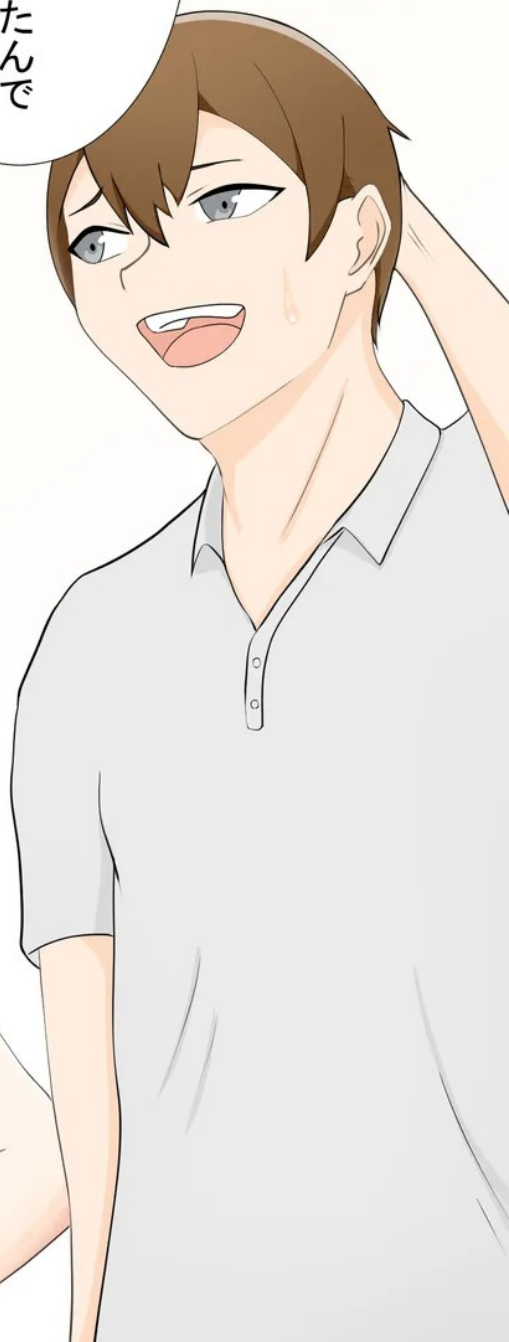
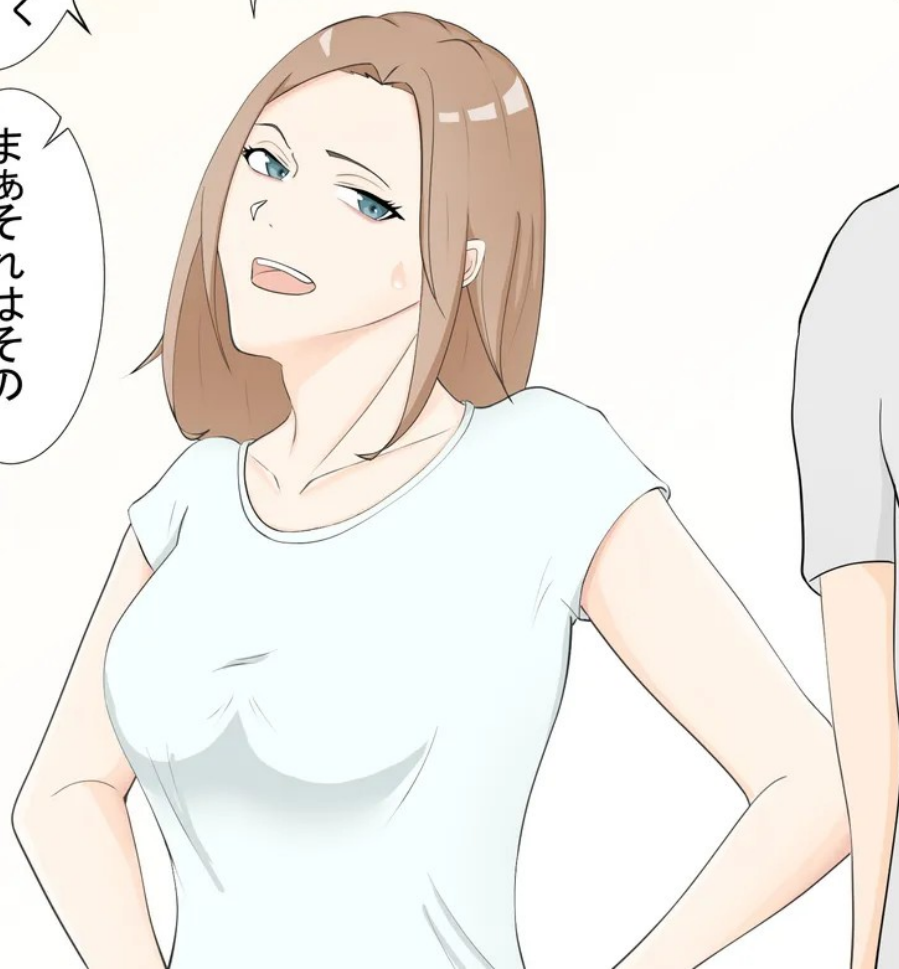
その

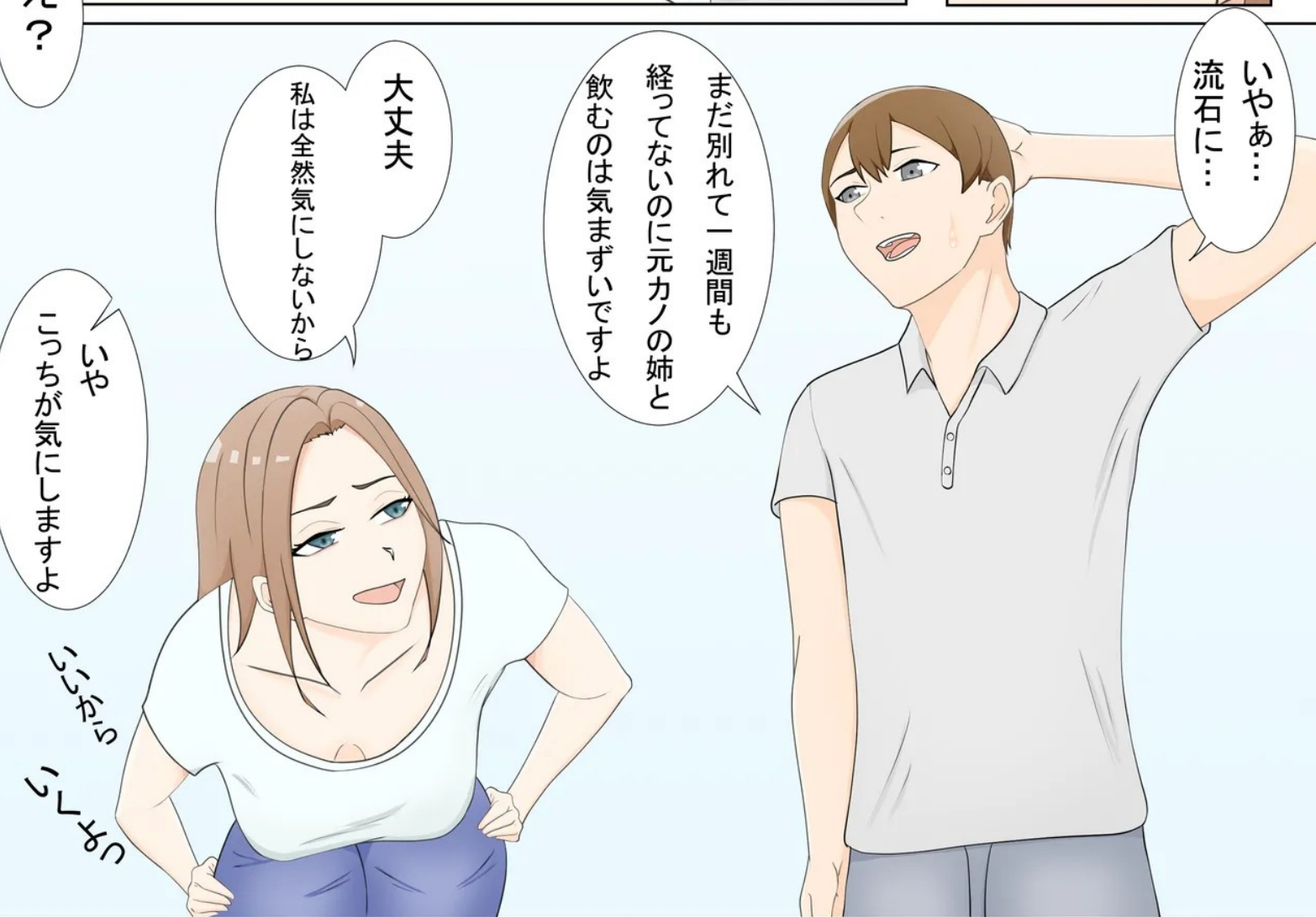
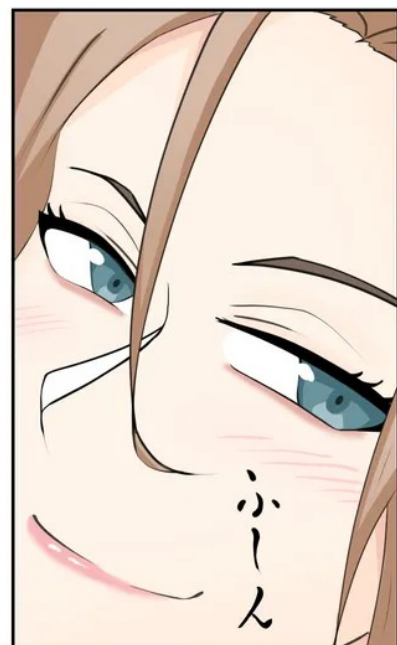
ウチの妹が
ごめんね

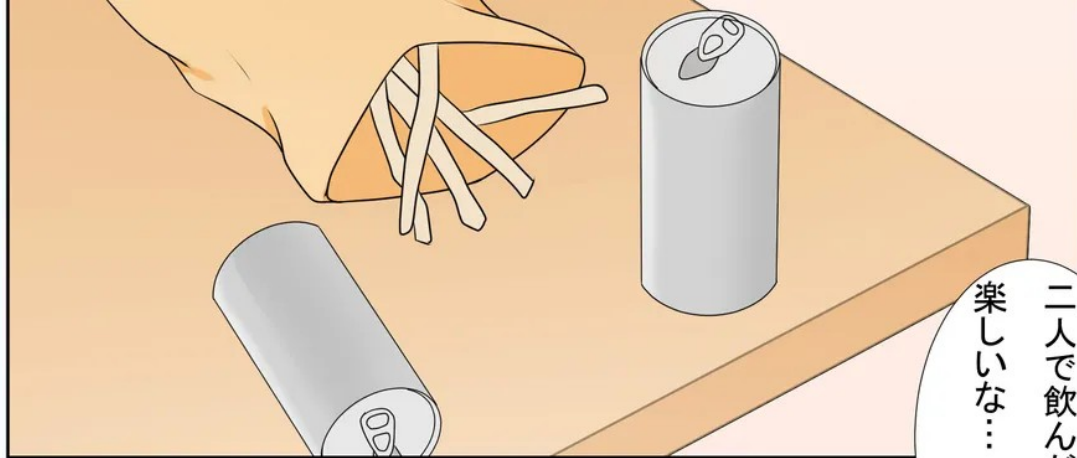
けどまさか二人がこんなに早く
別れるなんて思わなかったよ

まあそれはその

相性が悪かったというか…
俺が悪かったというか…





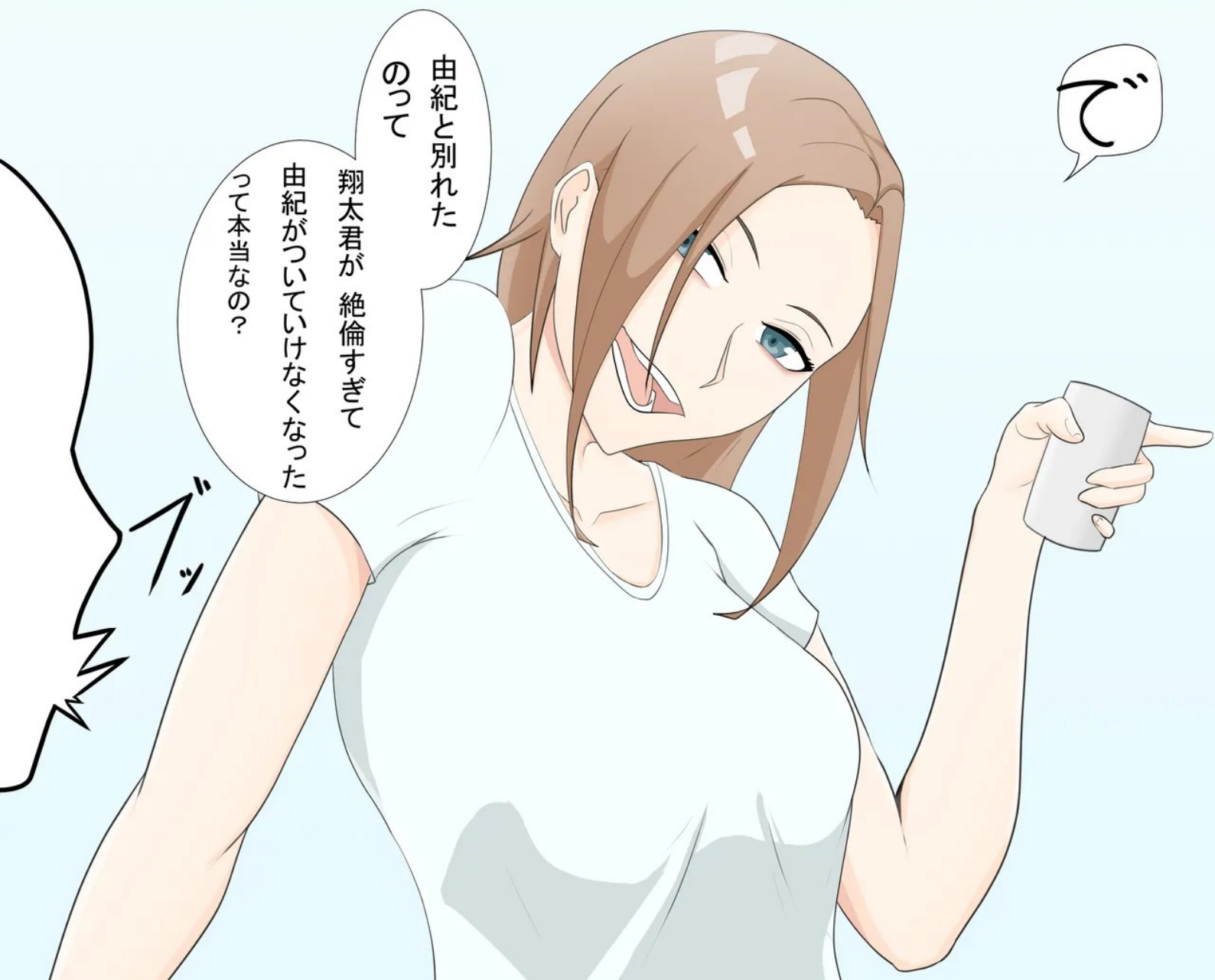


いやーやっぱり
一人で飲むより

二人で飲んだほうが
楽しいな…



まあ
そうですね…



で

由紀と別れた
のって

翔太君が絶倫すぎて
由紀がついていけなくなった
って本当なの？

ブッ

急に何を
言ってくるんですか？

キホッ
ケホッ

アハハ
「めん」「めん」

けどその反応するってことは
やっぱり本当なんだ…

もう
いいじゃないですか
その話は…

ゴッ
ゴッ
ゴッ

私とHしよ

カッ

ねえ…

ズッ
ズッ
ズッ

何言ってー

翔太君

ドサッ

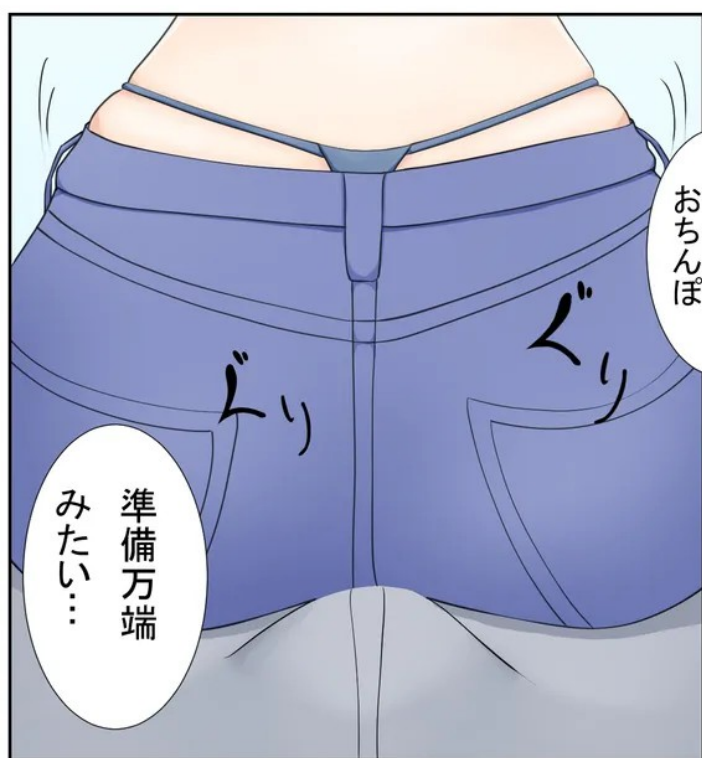
じょ…
冗談は

やめてくださいよ…

冗談なんかじゃ
ないよ

私、翔太君のコト
ずっと狙ってたんだよ
気付かなかった？

だからって
いきなりこんな事…



でも
翔太君の
おちんぽ

そそんな
コトは…

翔太君も
少しはこういう事
あるんじゃないかって
期待してたでしょ

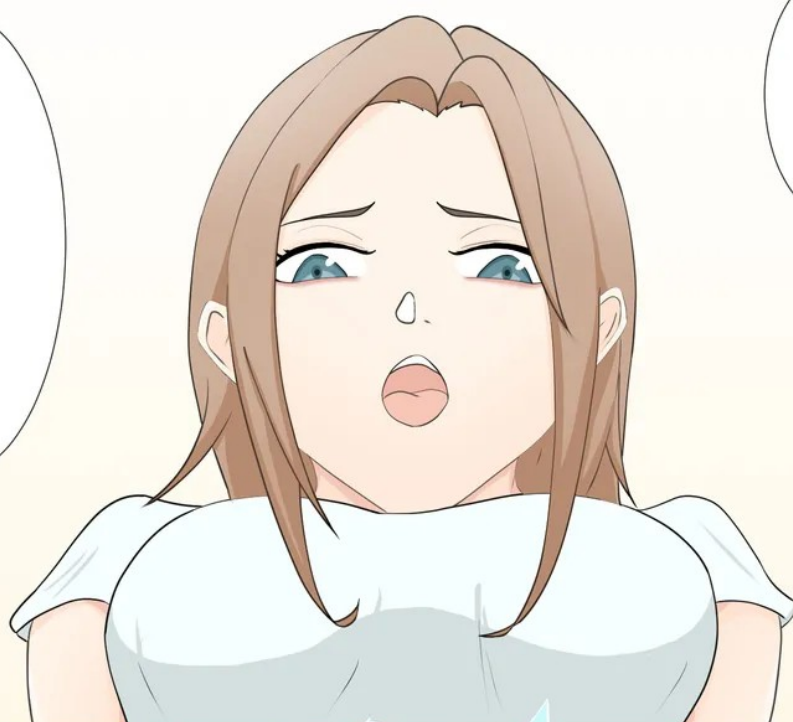


そそれは…



もー

じれったいなあ

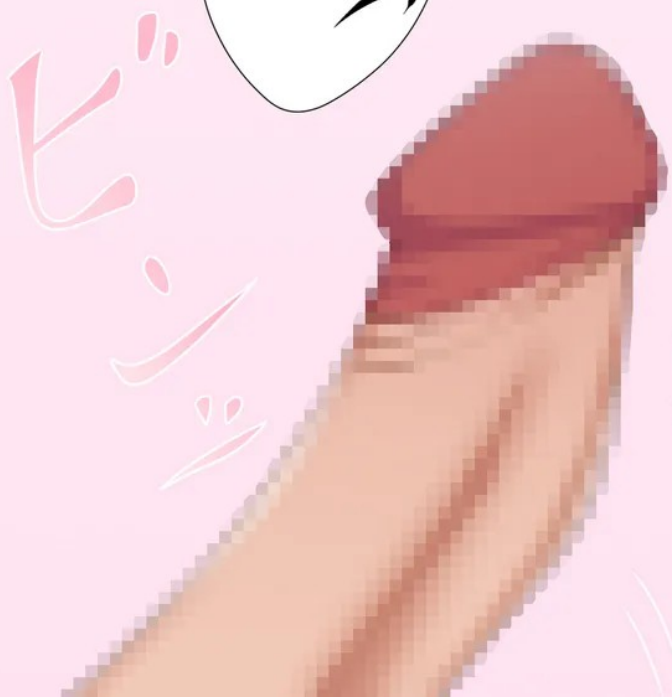


そらっ!!



なっ!!

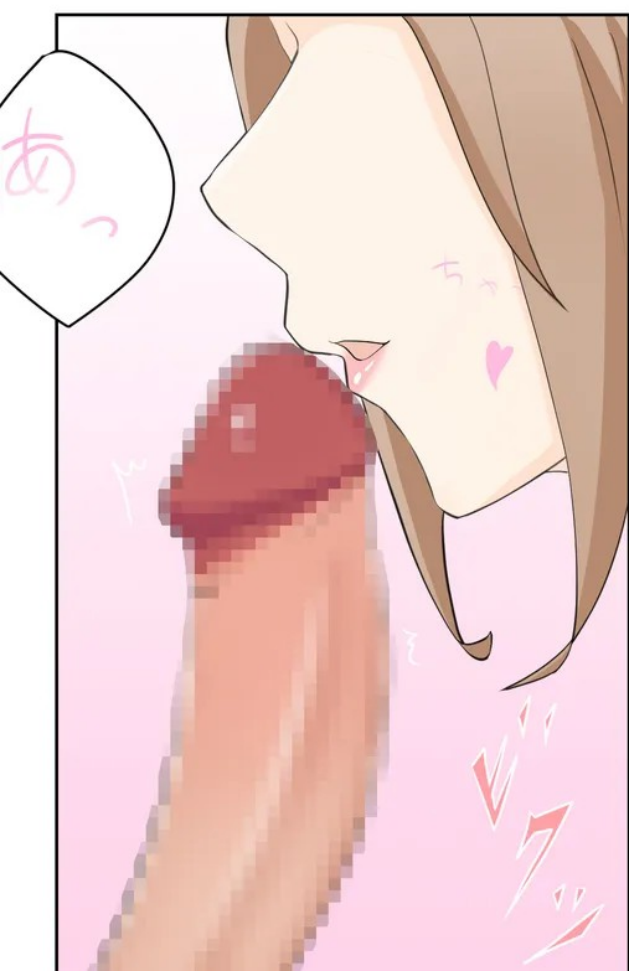
おっ





何してるんですかっ!!

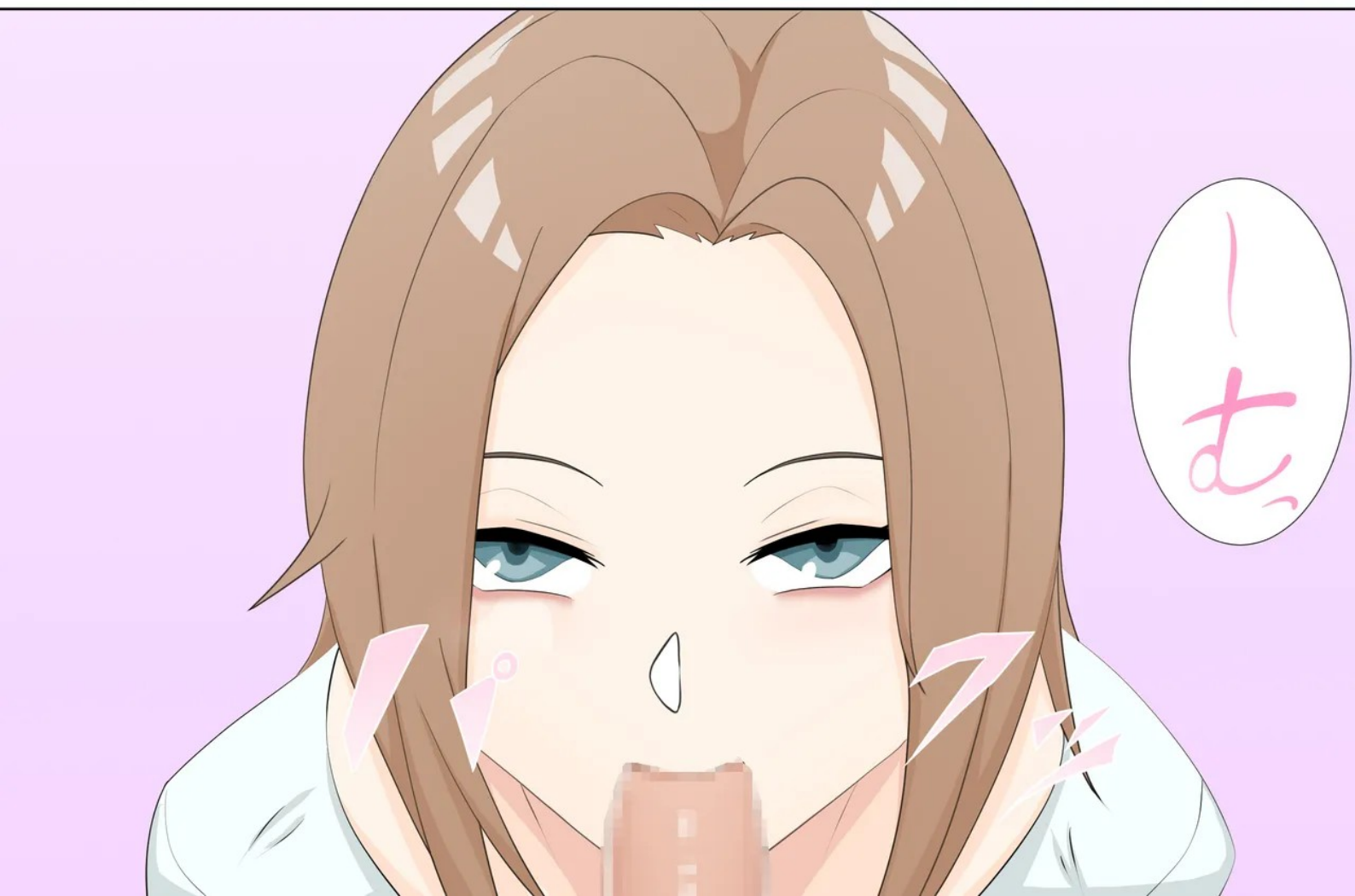
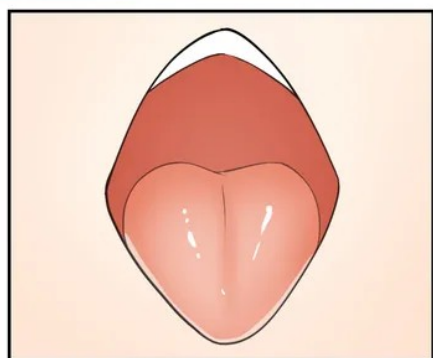
か...!

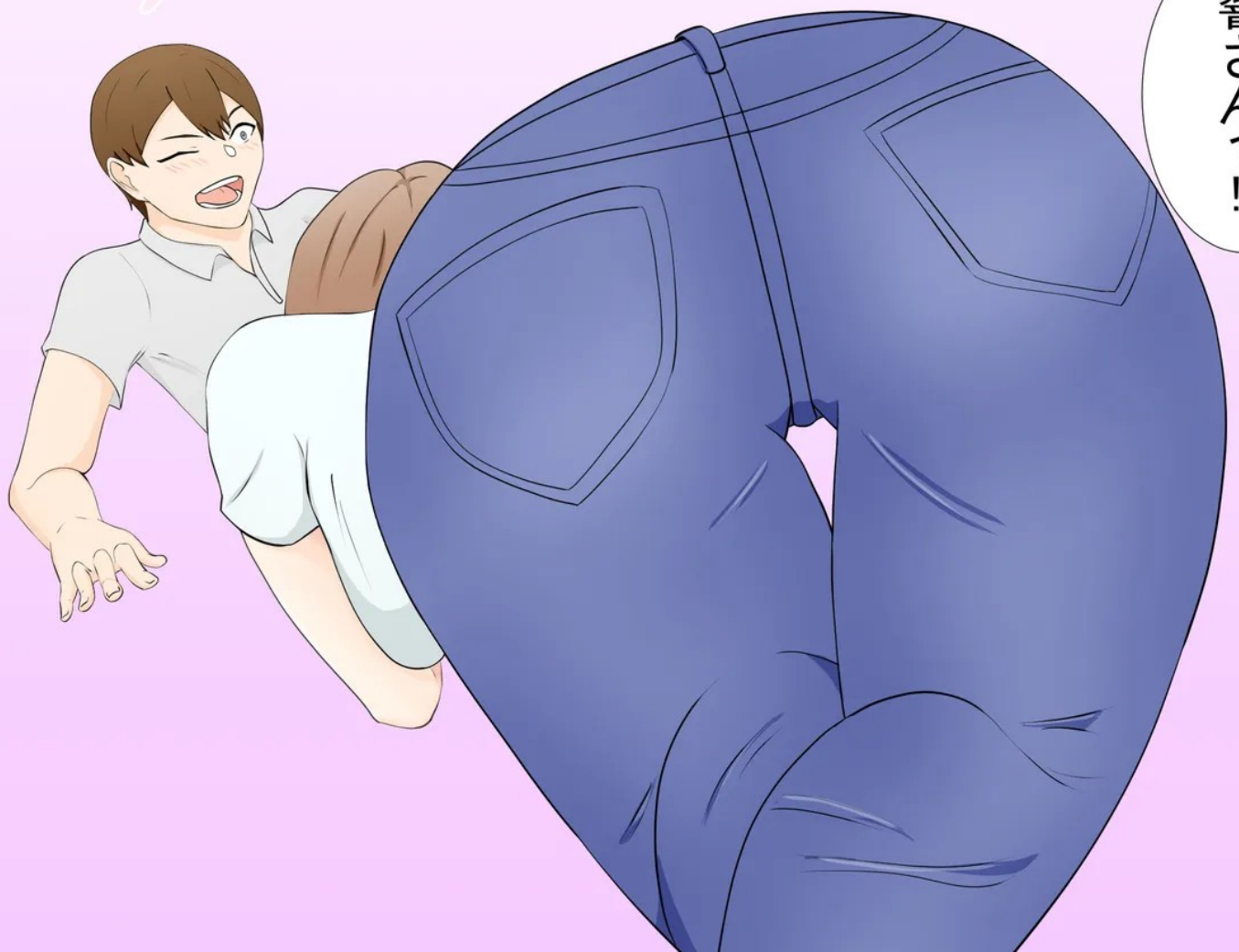
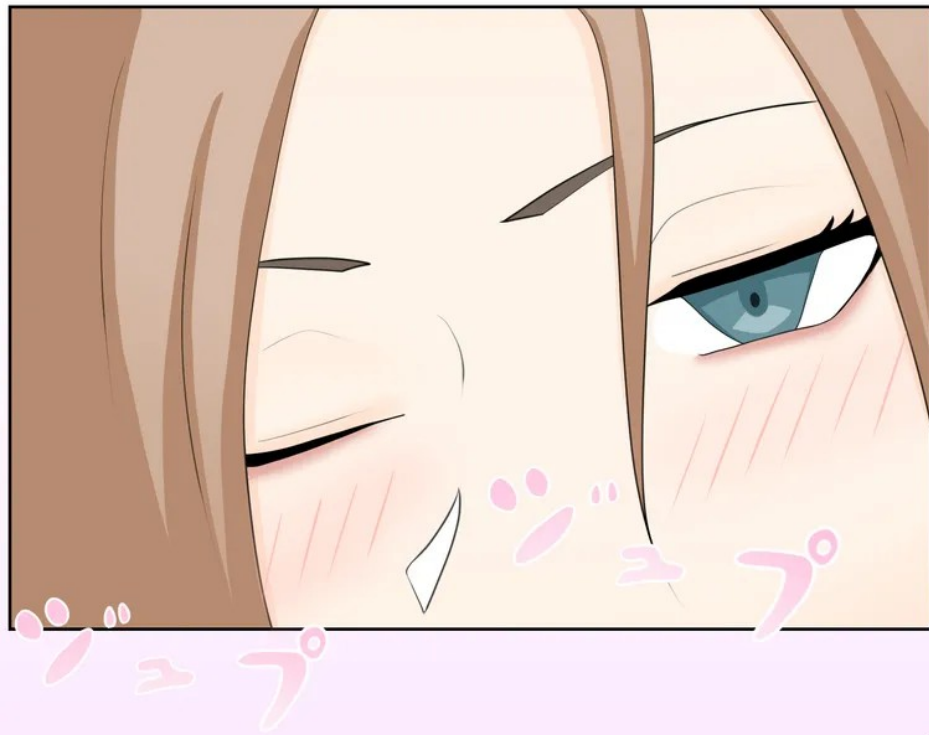
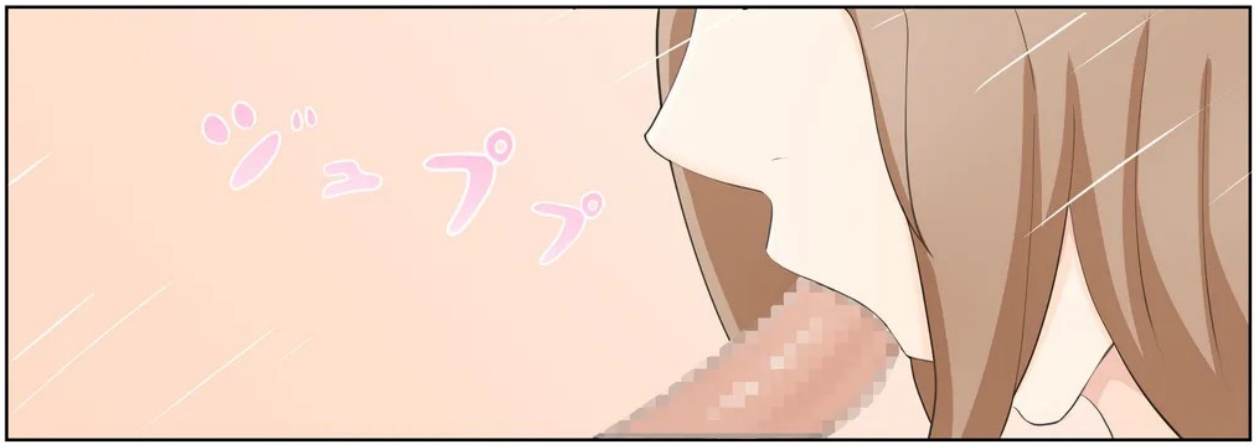


あっ



ちよっ...
待ってください!!





響さんっ!!

由紀と別れてから
一週間抜いてないから
我慢できないっ……!!



響さんっ……!!

もうっ
です!!



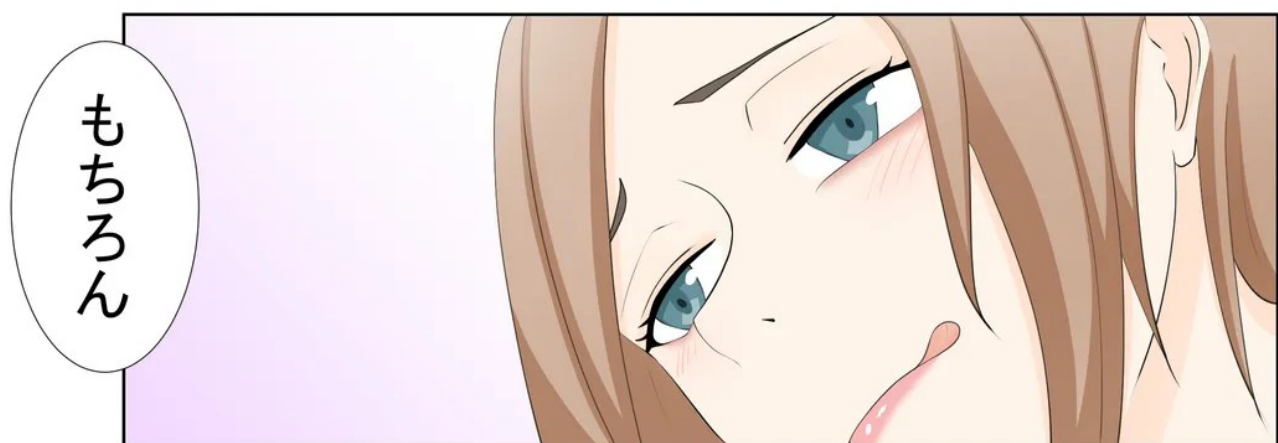
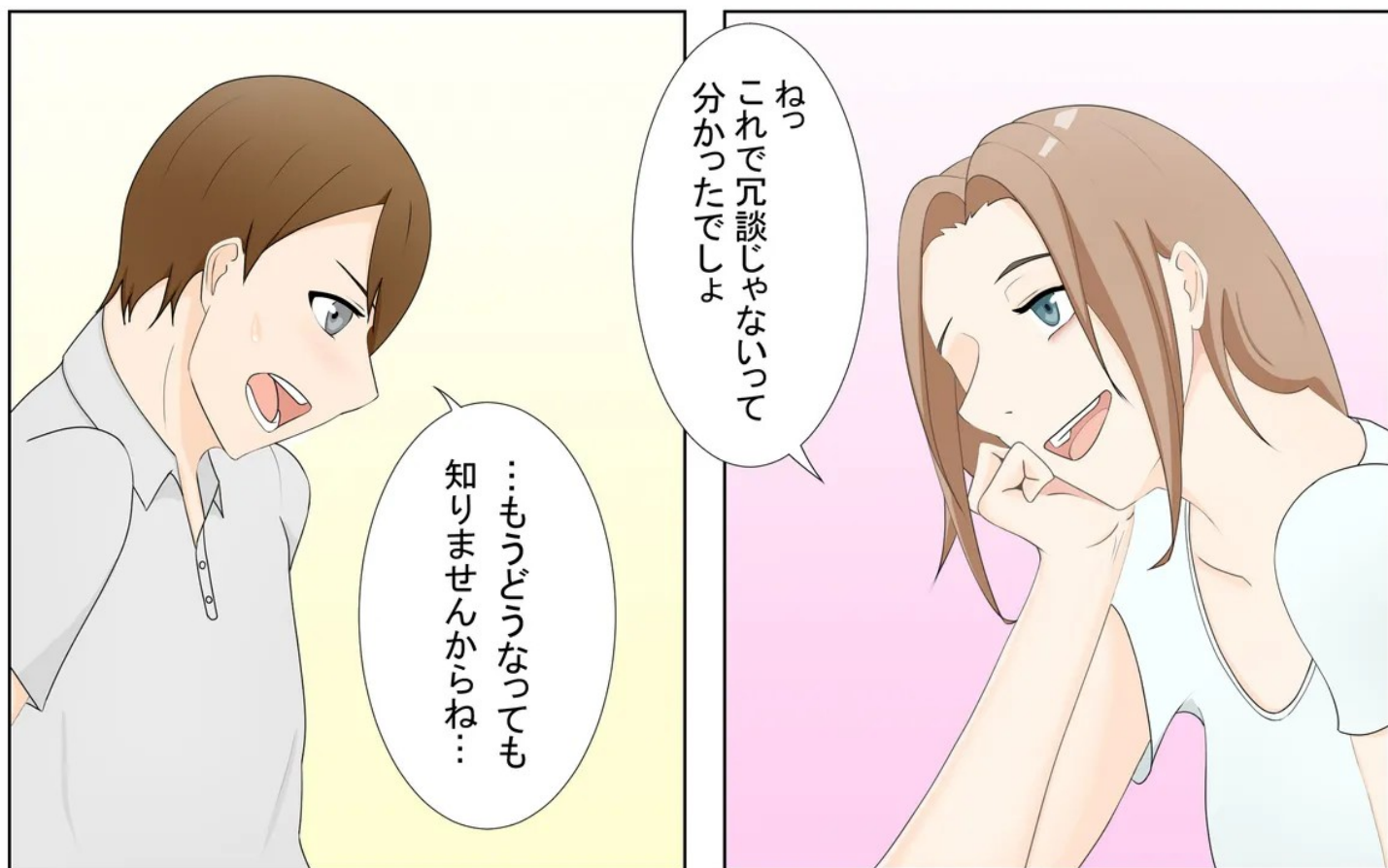
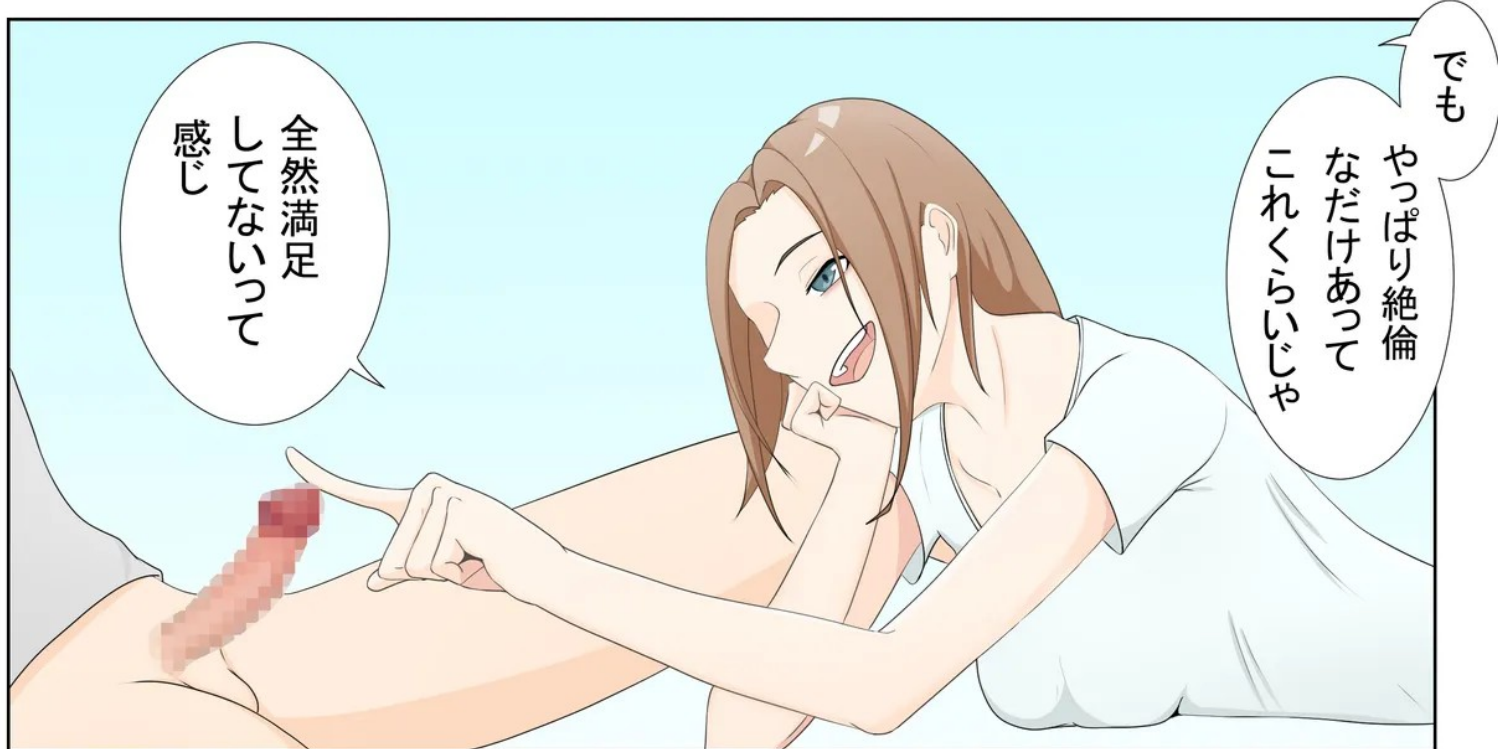
うわー

凄い量…



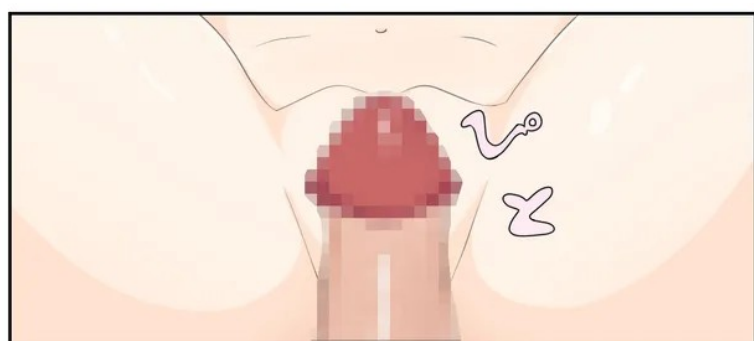
んあ、



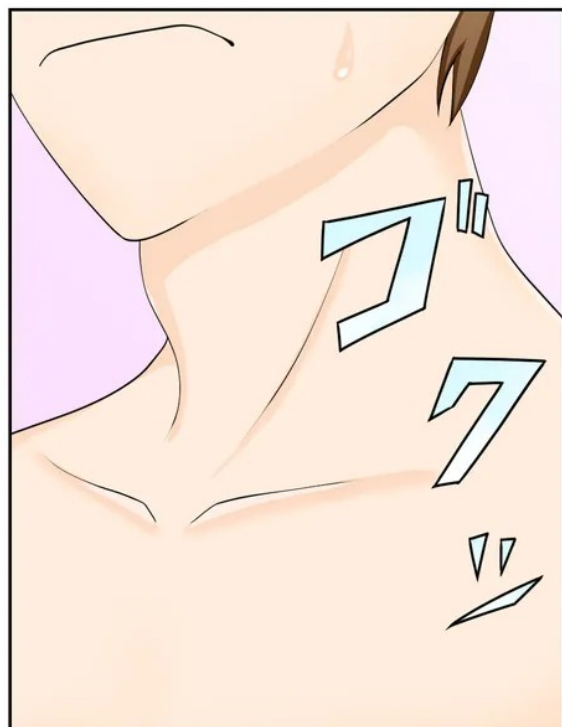


ふふっ
どうかな？

お姉さんのカラダ…



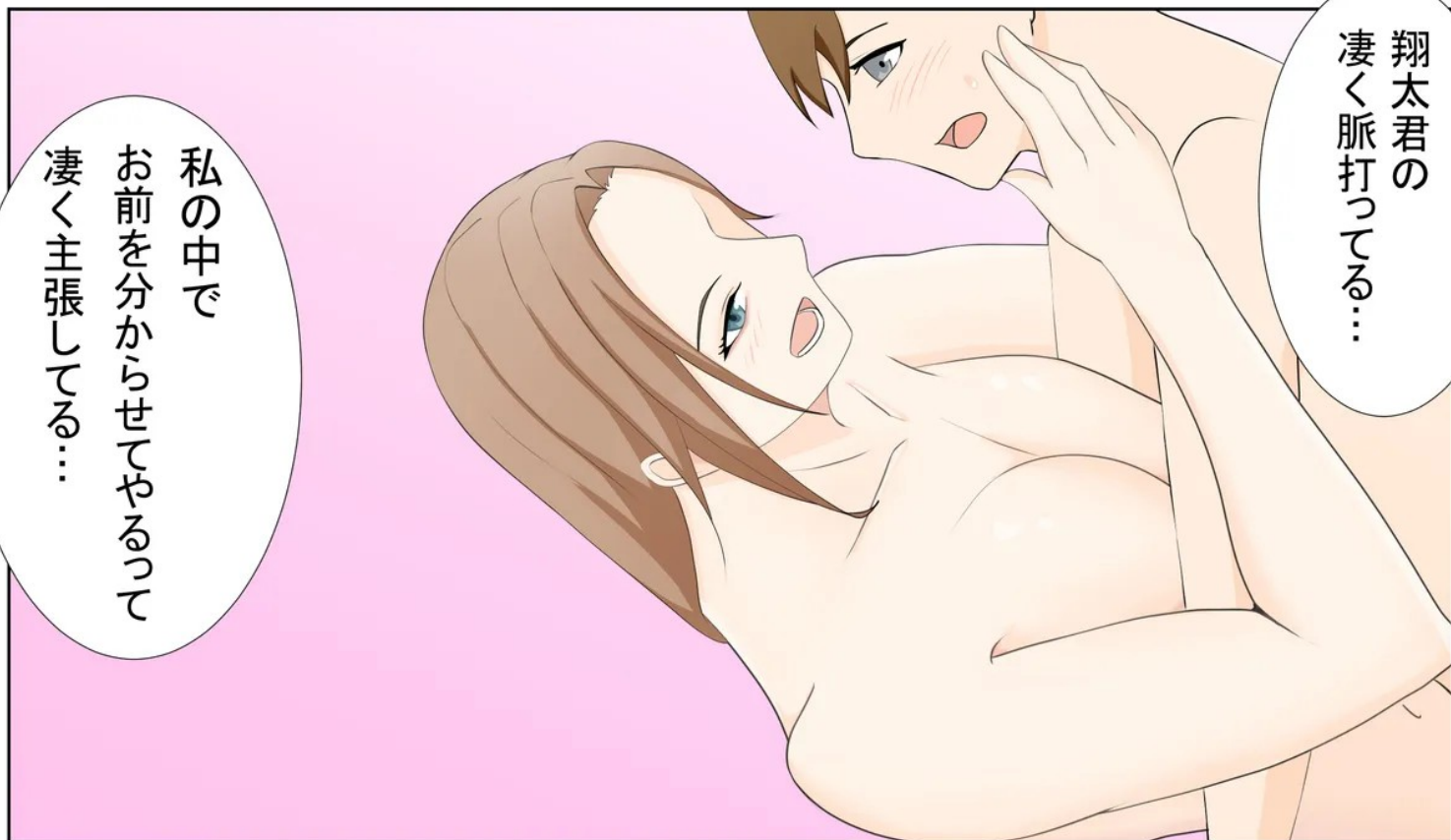
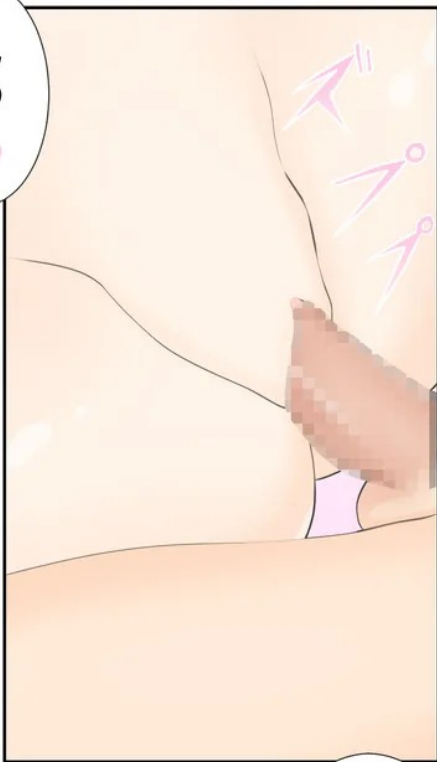
きゅっ♡





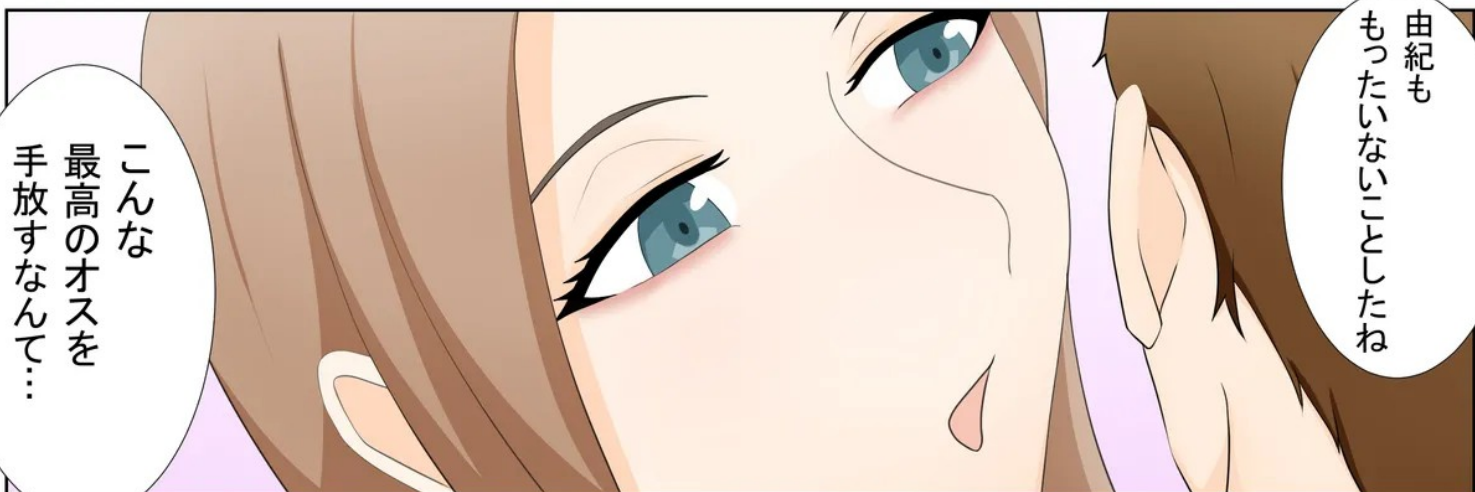
全部入ったね…

んっ



私の中で
お前を分らせてやるって
凄く主張してる…

翔太君の
凄く脈打ってる…



こんな
最高のオスを
手放すなんて…

由紀も
もったいないことしたね

由紀の事は
いいでしょ!!



やっぱり
由紀のコト

まだ引きずってるよね...



でもその気持ち
今は...



全部私に

頂戴…



いいよっ
翔太君!!

全部
私にぶつけてっ!!

あ

ん

あ

ん

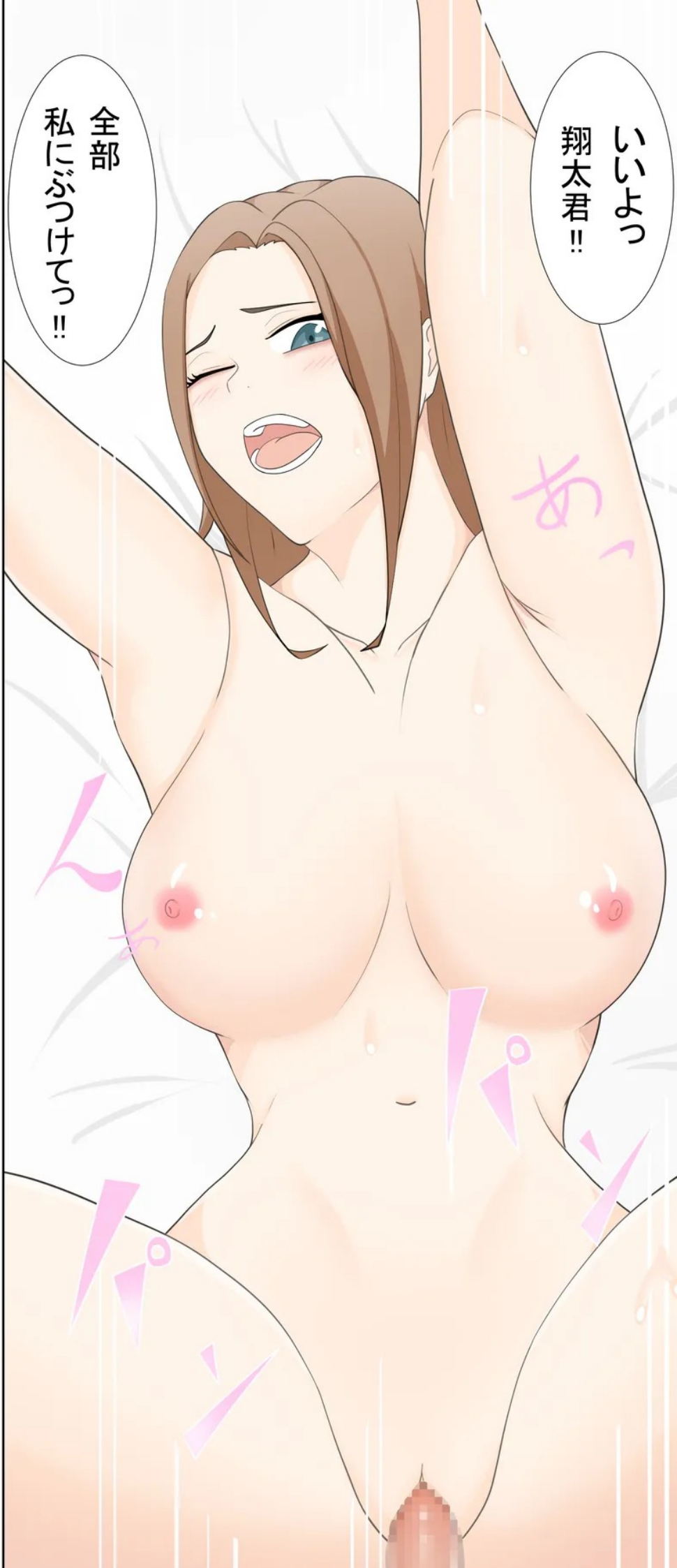
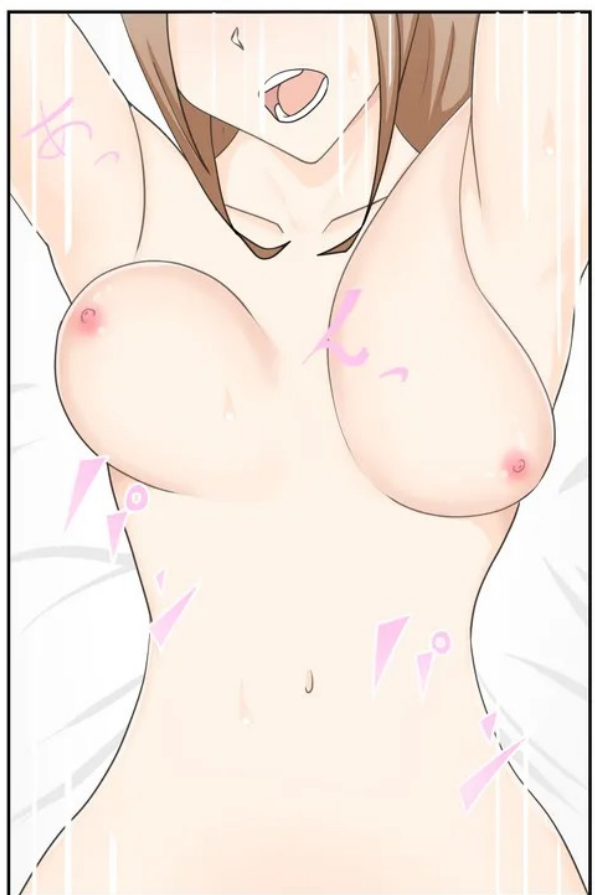
ん

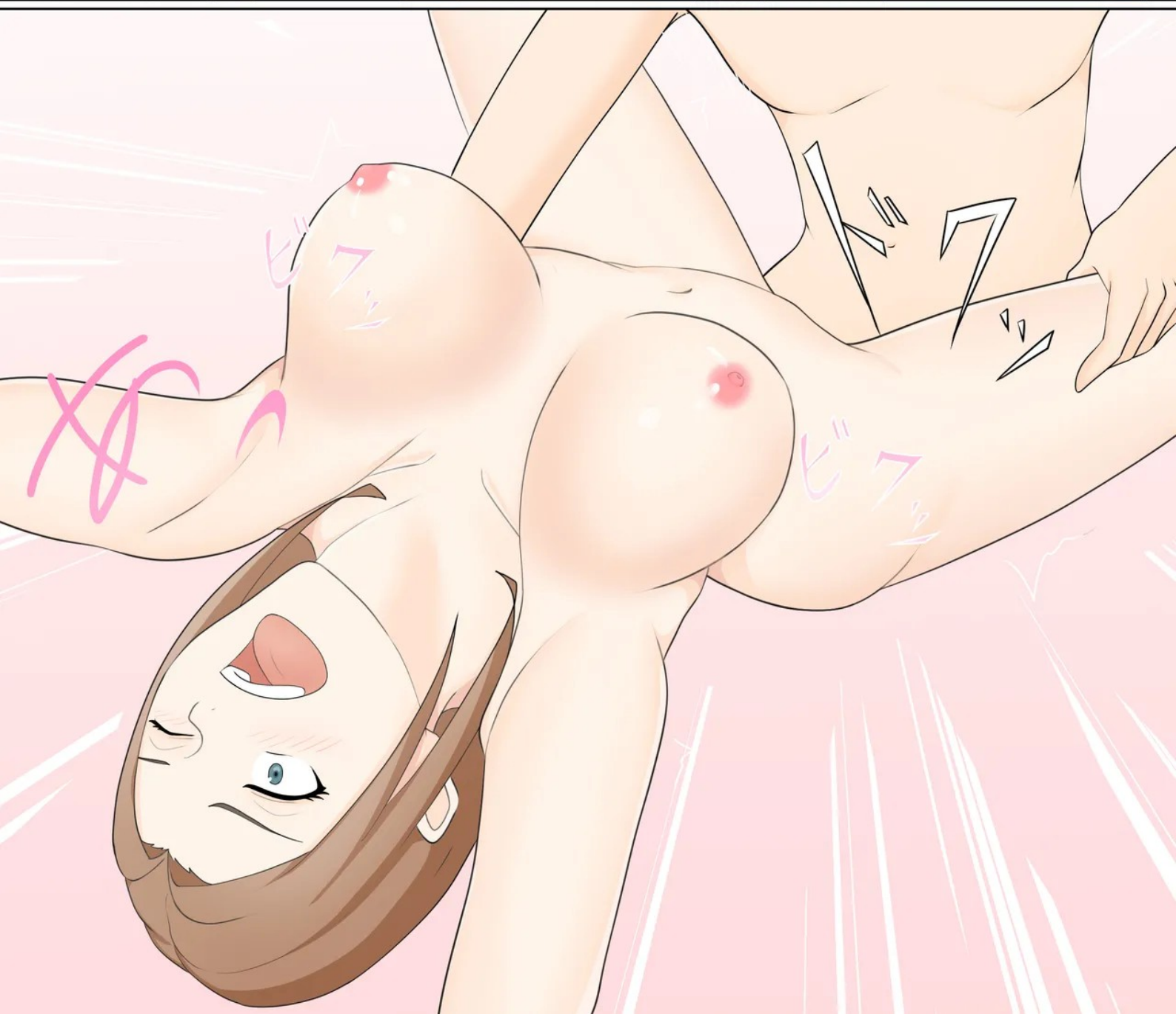
ん

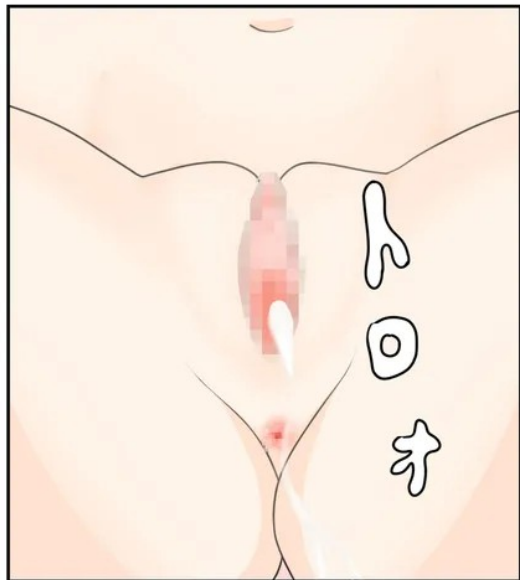


っ...!!

挿れただけなのに
もう持っていかれそう...!!







こんなのお腹に
押し付けられたら
誰でも分かるよ

うっ…

さっきも言ったけど
全部私に…

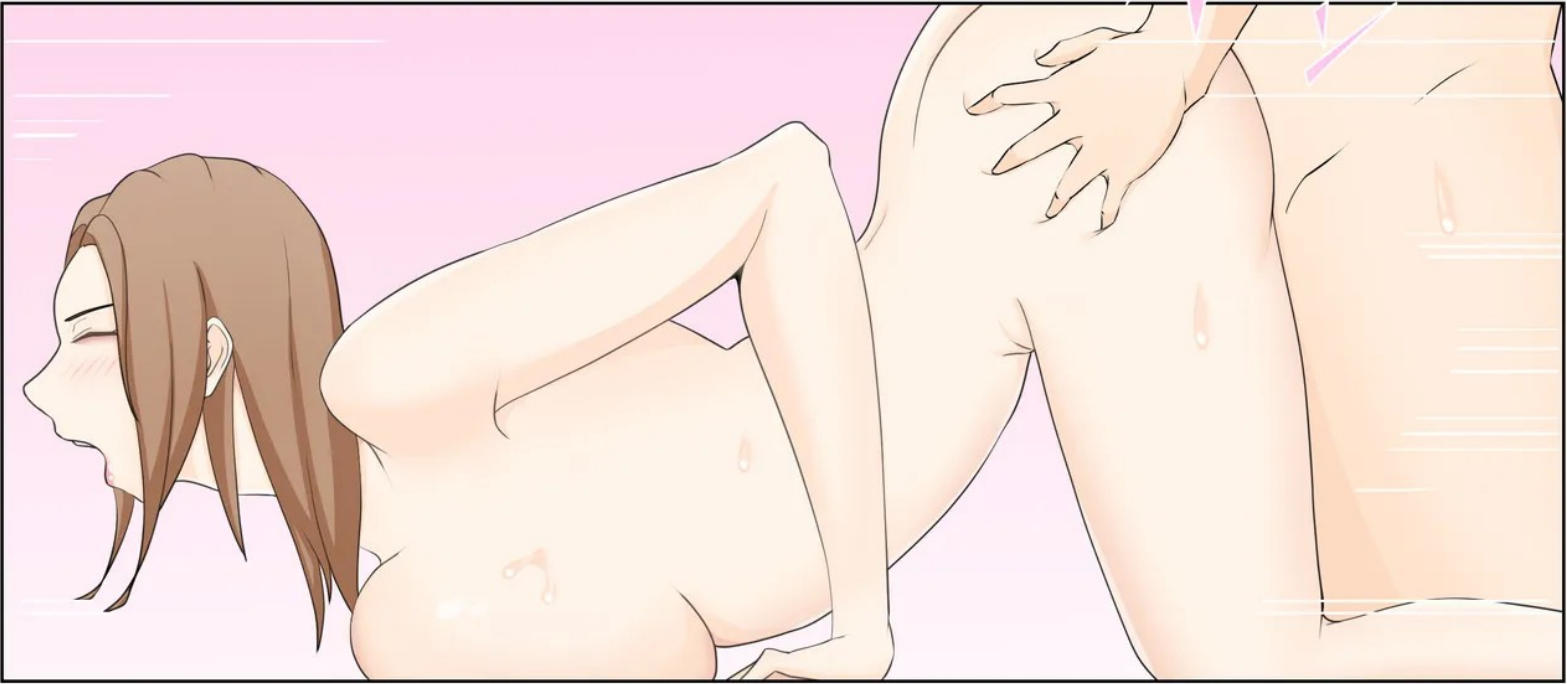


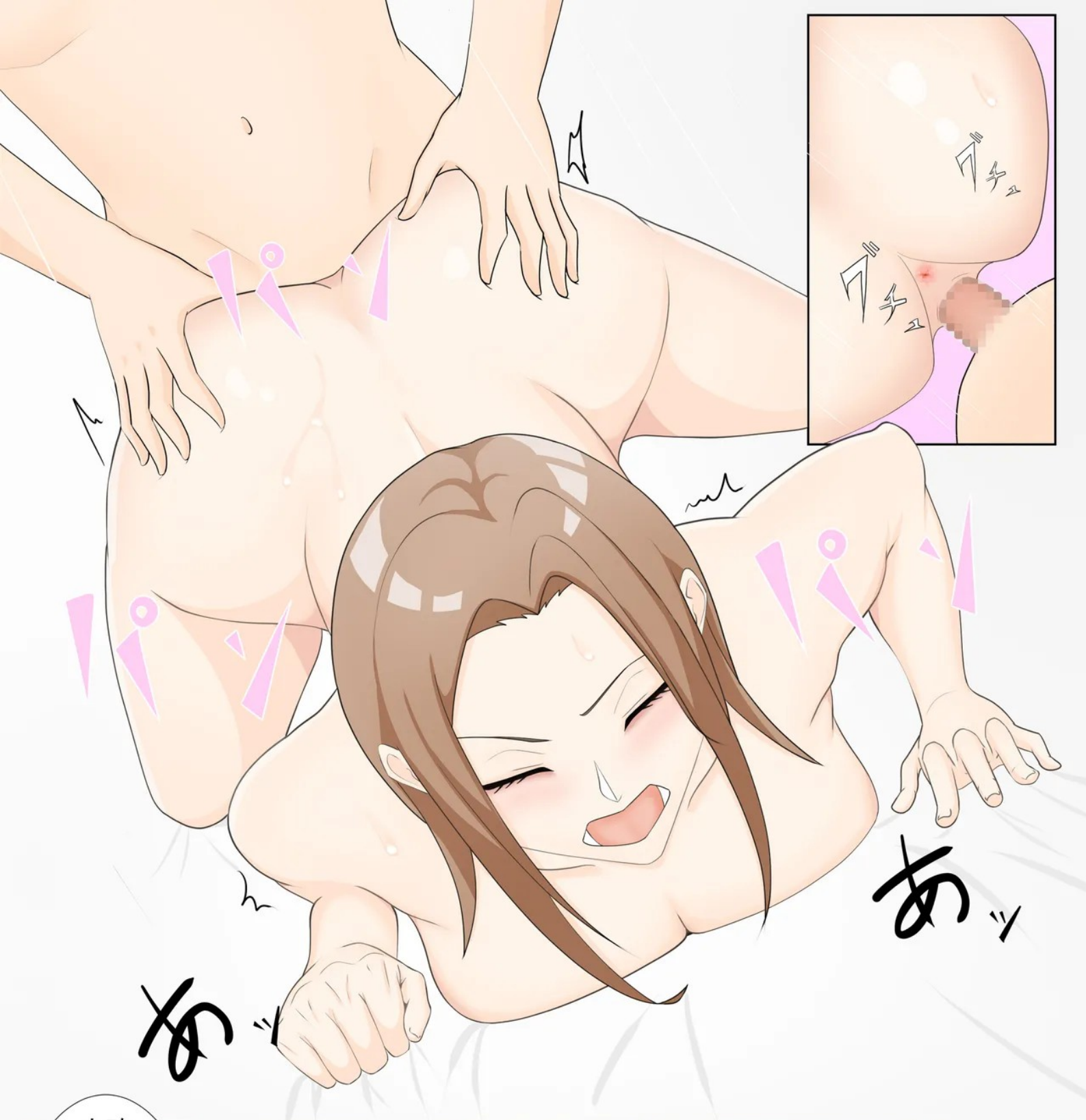
…頂戴



響さん…
オレ…

分かってるよ
まだまだ
足りないでしょ





確かにこれじゃ
由紀はついてけないかもね





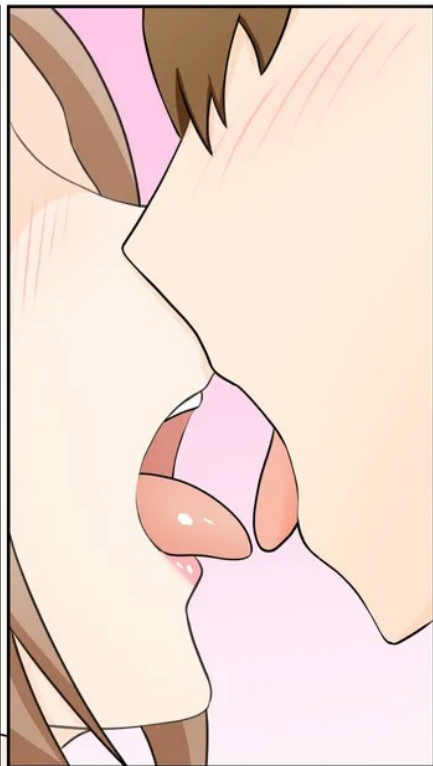
響さんっ
また出ますっ!!

うんぬ

きゅん!!

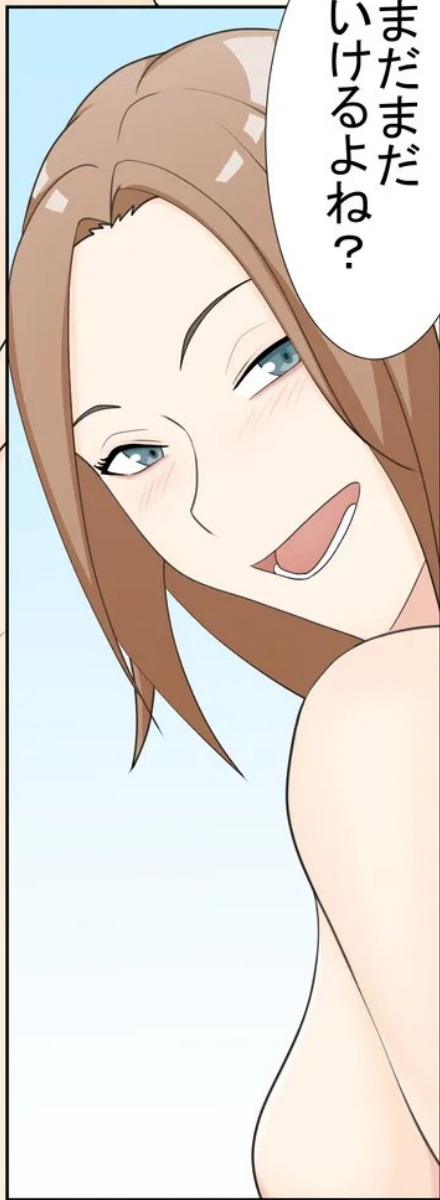


想像以上にタフな
3回目なのに
最初より元気に
なってるじゃない……



勿論です!!

まだまだ
いけるよね?





…どう
満足出来た？



…はい

ふふ

じゃあ
これから
よろしくしてくれるよね？

…はい
///